

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-5778

(P2017-5778A)

(43) 公開日 平成29年1月5日(2017.1.5)

(51) Int.Cl.
H02G 3/02 (2006.01)F1
H02G 3/02テーマコード (参考)
5G357

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号 特願2015-114271 (P2015-114271)
(22) 出願日 平成27年6月4日 (2015.6.4)(71) 出願人 000243803
未来工業株式会社
岐阜県安八郡輪之内町楡俣1695番地の
1
(74) 代理人 100079968
弁理士 廣瀬 光司
(72) 発明者 山本 茂樹
岐阜県安八郡輪之内町楡俣1695番地の
1 未来工業株式会社内
Fターム(参考) 5G357 CA01 CB02 CC01 CD07 CE01
CE03

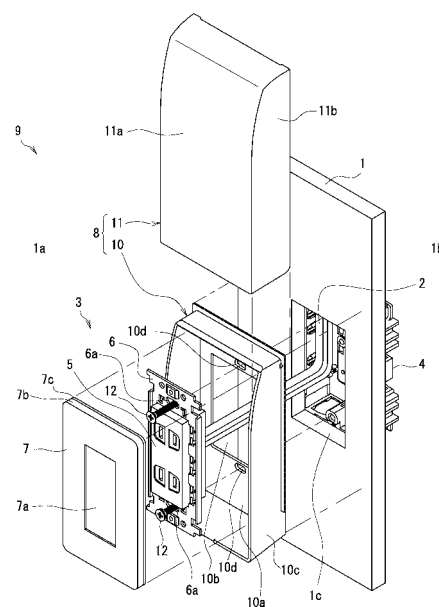
(54) 【発明の名称】 配線器具装置の隠ぺい方法、配線器具装置の隠ぺい装置、および配線器具装置の隠ぺい構造

(57) 【要約】

【課題】 配線器具装置を長期に渡り安定して覆い隠すことができる、配線器具装置の隠ぺい方法を提供する。

【解決手段】 配線器具装置3は、壁裏1bの配線器具固定体4と、壁裏1bの電線2が接続されて壁孔1cから露出する配線器具5と、配線器具5を保持する器具保持枠6と、器具保持枠6および壁孔1cを覆う化粧プレート7とを備える。隠ぺい装置8は、背面板10aを有する基台10と、カバー体11とを備える。隠ぺい方法は、背面板10aの貫通孔10bから、電線2が接続された配線器具5付きの器具保持枠6を、後方から通過させ、背面板10aを壁1の前面に当接させ器具保持枠6を背面板10aの前面に宛がう。そして、ビス12を、器具保持枠6および背面板10aに挿通し、配線器具固定体4にねじ込む。次いで、化粧プレート7を器具保持枠6に取り付け、基台10に組み付けられるカバー体11によって、配線器具装置3の壁表1a側を覆い隠す。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

壁に設置される配線器具装置の壁表側を、隠ぺい装置を用いて覆い隠す隠ぺい方法であって、

前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備え、

前記隠ぺい装置は、背面板を有する基台と、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体とを備え、

10

前記隠ぺい方法は、

前記基台の背面板に形成された貫通孔から、前記電線が接続された前記配線器具付きの前記器具保持枠を、後方から前方に通過させ、前記背面板の裏面を前記壁の前面に当接させるとともに前記器具保持枠を前記背面板の前面に宛がい、

前記器具保持枠に設けられたビス挿通孔に、ビスを挿通し、そのビスを前記背面板を通過させて前記配線器具固定体にねじ込むことにより、前記器具保持枠と前記配線器具固定体とで前記背面板および前記壁を挟持して、前記器具保持枠および前記基台を前記壁に固定し、

次いで、前記化粧プレートを前記器具保持枠に取り付け、前記基台に組み付けられもしくは備わる前記カバー体によって、前記配線器具装置の前記壁表側を覆い隠す、配線器具装置の隠ぺい方法。

20

【請求項 2】

壁に設置される配線器具装置の壁表側を、隠ぺい装置を用いて覆い隠す隠ぺい方法であって、

前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備え、

前記隠ぺい装置は、背面板を有する基台と、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体とを備え、

30

前記隠ぺい方法は、

前記基台の背面板に形成された貫通孔から、前記電線を、後方から前方に通過させ、その電線を、前記配線器具付きの前記器具保持枠における配線器具に接続し、前記背面板の裏面を前記壁の前面に当接させるとともに前記器具保持枠を前記背面板の前面に宛がい、前記器具保持枠に設けられたビス挿通孔に、ビスを挿通し、そのビスを前記背面板を通過させて前記配線器具固定体にねじ込むことにより、前記器具保持枠と前記配線器具固定体とで前記背面板および前記壁を挟持して、前記器具保持枠および前記基台を前記壁に固定し、

次いで、前記化粧プレートを前記器具保持枠に取り付け、前記基台に組み付けられもしくは備わる前記カバー体によって、前記配線器具装置の前記壁表側を覆い隠す、配線器具装置の隠ぺい方法。

40

【請求項 3】

壁に設置される配線器具装置の壁表側を覆い隠す、隠ぺい装置であって、

前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備え、

前記隠ぺい装置は、

前記壁の前面と前記器具保持枠との間に配置される背面板を有する基台と、前記基台に組み付けられもしくは備えられて、前記配線器具装置の壁表側を覆い隠すカバー体とを

50

備え、

前記背面板は、前記配線器具またはその配線器具に接続された前記電線が貫通配置される貫通孔を有し、

前記カバー体は、前記基台に対して、前記化粧プレートを含めて前記配線器具装置の前記壁表側を覆い隠す閉位置と、前記配線器具を露出させる開位置とに移動可能であって、

前記閉位置にあるカバー体と前記基台とで取り囲む内側空間は、前記化粧プレートを収容可能な大きさに形成される、配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 4】

前記貫通孔は、前記電線が接続された前記配線器具付きの前記器具保持枠が通過可能となる大きさに形成される、請求項 3 に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 5】

前記内側空間は、前記配線器具に差し込まれたコンセントプラグを収容可能に形成され、かつ、前記隠ぺい装置には、前記コンセントプラグのコードが前記内側空間から引き出される引出し開口が設けられる、請求項 3 または 4 に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 6】

前記基台は、前記背面板から立ち上がる立設壁を有し、その立設壁が取り囲む内側が、前記内側空間を形成する、請求項 3 ないし 5 のいずれか 1 項に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 7】

前記カバー体は、前記基台に対して上下にスライド移動可能であって、そのスライド移動する下方端側が前記閉位置となり、上方端側が前記開位置となる、請求項 3 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 8】

前記基台と前記カバー体には、前記開位置にて前記カバー体を保持する保持手段が設けられる、請求項 7 に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 9】

前記カバー体は、その左右の両側および上側が、前記閉位置にて前記壁の前面に当接または近接するまで延びて形成される、請求項 3 ないし 8 のいずれか 1 項に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 10】

前記背面板は、その裏面に、前記壁孔を取り囲むように貼り付けられたパッキンを有する、請求項 3 ないし 9 のいずれか 1 項に記載の配線器具装置の隠ぺい装置。

【請求項 11】

壁に設置される配線器具装置の壁表側を覆い隠す、隠ぺい構造であって、

前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備え、

前記隠ぺい構造は、

前記壁の前面と前記器具保持枠との間に配置された背面板を有する基台と、前記基台に組み付けられてもしくは備えられて、前記配線器具装置の壁表側を覆い隠すカバー体とを備え、

前記背面板は、前記配線器具またはその配線器具に接続された前記電線が貫通配置される貫通孔を有し、

前記器具保持枠に設けられたビス挿通孔に挿通されたビスが、前記背面板を通過して前記配線器具固定体にねじ込まれて、前記器具保持枠と前記配線器具固定体とで前記背面板および前記壁を挟持して、前記器具保持枠および前記基台が前記壁に固定され、また、

前記カバー体は、前記化粧プレートを含めて前記配線器具装置を覆い隠す閉位置と、前記配線器具を露出させる開位置とに移動可能となっている、配線器具装置の隠ぺい構造。

【発明の詳細な説明】

10

20

30

40

50

【技術分野】

【0001】

この発明は、配線器具を埃等から保護するために配線器具装置を隠ぺいする、配線器具装置の隠ぺい方法、配線器具装置の隠ぺい装置、および配線器具装置の隠ぺい構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、例えば、屋内のコンセントにおいて、トラッキング現象を防止するために、コンセントに防塵カバーを後付けしたものがあった（特許文献1参照）。図13に示すように、この防塵カバー22は、棒状のベース23と、そのベース23に取り付けられた開閉可能なコンセントプラグカバー24とからなっていた。そして、防塵カバー22は、そのベース23が両面テープ25を用いてコンセント21の化粧カバー21a（化粧プレート）に貼り付けられ、これによって、防塵カバー22は、コンセント21側に取り付けられた。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】登録実用新案第3015649号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

20

【0004】

ところで、前記従来の防塵カバー22においては、その取付けが、化粧カバー21a（化粧プレート）への両面テープ25による貼り付けにより行われていたため、外れやすく不安定であった。

【0005】

この発明は、上記した従来の欠点を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、配線器具装置を長期に渡り安定して覆い隠すことができる、配線器具装置の隠ぺい方法、配線器具装置の隠ぺい装置、および配線器具装置の隠ぺい構造を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

30

【0006】

この発明に係る配線器具装置の隠ぺい方法、配線器具装置の隠ぺい装置、および配線器具装置の隠ぺい構造は、前記目的を達成するために、次の構成からなる。すなわち、

請求項1に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい方法は、壁に設置される配線器具装置の壁表側を、隠ぺい装置を用いて覆い隠す隠ぺい方法である。ここで、前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備える。そして、前記隠ぺい装置は、背面板を有する基台と、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体とを備える。そこで、前記隠ぺい方法は、前記基台の背面板に形成された貫通孔から、前記電線が接続された前記配線器具付きの前記器具保持枠を、後方から前方に通過させ、前記背面板の裏面を前記壁の前面に当接させるとともに前記器具保持枠を前記背面板の前面に宛がう。そして、前記器具保持枠に設けられたビス挿通孔に、ビスを挿通し、そのビスを前記背面板を通過させて前記配線器具固定体にねじ込むことにより、前記器具保持枠と前記配線器具固定体とで前記背面板および前記壁を挟持して、前記器具保持枠および前記基台を前記壁に固定する。次いで、前記化粧プレートを前記器具保持枠に取り付け、前記基台に組み付けられもしくは備わる前記カバー体によって、前記配線器具装置の前記壁表側を覆い隠す。

40

【0007】

50

この隠ぺい方法によると、基台における背面板の裏面が、壁の前面に当接し、器具保持枠が、背面板の前面に宛がわれる。したがって、背面板は、器具保持枠の裏側にあり、器具保持枠のビス挿通孔を通るビスが、配線器具固定体にねじ込まれると、つまり、器具保持枠が配線器具固定体にビス止めされると、背面板は、器具保持枠によって壁に押し付けられて、基台は、壁にしっかりと固定される。そして、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体により、配線器具装置の壁表側を覆い隠すことができる。

【0008】

また、請求項2に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい方法は、壁に設置される配線器具装置の壁表側を、隠ぺい装置を用いて覆い隠す隠ぺい方法である。ここで、前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備える。そして、前記隠ぺい装置は、背面板を有する基台と、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体とを備える。そこで、前記隠ぺい方法は、前記基台の背面板に形成された貫通孔から、前記電線を、後方から前方に通過させ、その電線を、前記配線器具付きの前記器具保持枠における配線器具に接続し、前記背面板の裏面を前記壁の前面に当接させるとともに前記器具保持枠を前記背面板の前面に宛がう。そして、前記器具保持枠に設けられたビス挿通孔に、ビスを挿通し、そのビスを前記背面板を通過させて前記配線器具固定体にねじ込むことにより、前記器具保持枠と前記配線器具固定体とで前記背面板および前記壁を挟持して、前記器具保持枠および前記基台を前記壁に固定する。次いで、前記化粧プレートを前記器具保持枠に取り付け、前記基台に組み付けられもしくは備わる前記カバー体によって、前記配線器具装置の前記壁表側を覆い隠す。

【0009】

この隠ぺい方法によると、基台における背面板の裏面が、壁の前面に当接し、器具保持枠が、背面板の前面に宛がわれる。したがって、背面板は、器具保持枠の裏側にあり、器具保持枠のビス挿通孔を通るビスが、配線器具固定体にねじ込まれると、つまり、器具保持枠が配線器具固定体にビス止めされると、背面板は、器具保持枠によって壁に押し付けられて、基台は、壁にしっかりと固定される。そして、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体により、配線器具装置の壁表側を覆い隠すことができる。

【0010】

また、請求項3に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、壁に設置される配線器具装置の壁表側を覆い隠す、隠ぺい装置である。ここで、前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備える。そこで、前記隠ぺい装置は、前記壁の前面と前記器具保持枠との間に配置される背面板を有する基台と、前記基台に組み付けられてもしくは備えられて、前記配線器具装置の壁表側を覆い隠すカバー体とを備える。前記背面板は、前記配線器具またはその配線器具に接続された前記電線が貫通配置される貫通孔を有する。そして、前記カバー体は、前記基台に対して、前記化粧プレートを含めて前記配線器具装置の前記壁表側を覆い隠す閉位置と、前記配線器具を露出させる開位置とに移動可能であって、前記閉位置にあるカバー体と前記基台とで取り囲む内側空間は、前記化粧プレートを収容可能な大きさに形成される。

【0011】

この隠ぺい装置によると、基台における背面板は、壁の前面と器具保持枠との間に配置される。そこで、器具保持枠が配線器具固定体にビス止めされると、背面板は、器具保持枠によって壁に押し付けられて、基台は、壁にしっかりと固定される。そして、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体により、配線器具装置の壁表側を覆い隠すことができる。

10

20

30

40

50

【0012】

また、請求項4に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項3に記載の隠ぺい装置において、前記貫通孔は、前記電線が接続された前記配線器具付きの前記器具保持枠が通過可能となる大きさに形成される。これにより、既設の配線器具装置に対し、配線器具から電線を取り外すことなく、この隠ぺい装置を配置することができる。

【0013】

また、請求項5に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項3または4に記載の隠ぺい装置において、前記内側空間は、前記配線器具に差し込まれたコンセントプラグを収容可能に形成され、かつ、前記隠ぺい装置には、前記コンセントプラグのコードが前記内側空間から引き出される引出し開口が設けられる。これにより、コンセントプラグのコードを引出し開口から引き出すことで、コンセントプラグを配線器具に差し込んだ状態のままで、カバー体を閉位置にすることができる。

10

【0014】

また、請求項6に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項3ないし5のいずれか1項に記載の隠ぺい装置において、前記基台は、前記背面板から立ち上がる立設壁を有し、その立設壁が取り囲む内側が、前記内側空間を形成する。これにより、隠ぺい装置は、剛性が増し、カバー体を押しても撓み変形し難い。

【0015】

また、請求項7に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項3ないし6のいずれか1項に記載の隠ぺい装置において、前記カバー体は、前記基台に対して上下にスライド移動可能であって、そのスライド移動する下方端側が前記閉位置となり、上方端側が前記開位置となる。

20

【0016】

また、請求項8に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項7に記載の隠ぺい装置において、前記基台と前記カバー体には、前記開位置にて前記カバー体を保持す保持手段が設けられる。

【0017】

また、請求項9に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項3ないし8のいずれか1項に記載の隠ぺい装置において、前記カバー体は、その左右の両側および上側が、前記閉位置にて前記壁の前面に当接または近接するまで延びて形成される。これにより、カバー体が閉位置にあるとき、基台は、そのカバー体に隠れて見え難く、見栄えがよい。

30

【0018】

また、請求項10に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい装置は、請求項3ないし9のいずれか1項に記載の隠ぺい装置において、前記背面板は、その裏面に、前記壁孔を取り囲むように貼り付けられたパッキンを有する。これにより、壁の前面に凹凸がある場合であっても、壁と基台の背面板との密着性が増し、壁内の粉塵が、壁と背面板との間を通過して放散するのを防止することができる。

【0019】

また、請求項11に記載の発明に係る配線器具装置の隠ぺい構造は、壁に設置される配線器具装置の壁表側を覆い隠す、隠ぺい構造である。ここで、前記配線器具装置は、壁裏に配置される配線器具固定体と、前記壁裏の電線が接続されて壁孔から前記壁表に露出する配線器具と、その配線器具を保持して前記壁の前面に対向するとともに前記配線器具固定体にビス止めされる器具保持枠と、前記配線器具が前記壁表に露出するようにして前記器具保持枠および前記壁孔を覆う化粧プレートとを備える。そこで、前記隠ぺい構造は、前記壁の前面と前記器具保持枠との間に配置された背面板を有する基台と、前記基台に組み付けられてもしくは備えられて、前記配線器具装置の壁表側を覆い隠すカバー体とを備える。前記背面板は、前記配線器具またはその配線器具に接続された前記電線が貫通配置される貫通孔を有する。そして、前記器具保持枠に設けられたビス挿通孔に挿通されたビスが、前記背面板を通過して前記配線器具固定体にねじ込まれて、前記器具保持枠と前記

40

50

配線器具固定体と前記背面板および前記壁を挟持して、前記器具保持枠および前記基台が前記壁に固定される。また、前記カバー体は、前記化粧プレートを含めて前記配線器具装置を覆い隠す閉位置と、前記配線器具を露出させる開位置とに移動可能となっている。

【0020】

この隠ぺい構造によると、基台における背面板は、壁の前面と器具保持枠との間に配置される。そこで、器具保持枠のビス挿通孔を通るビスが、配線器具固定体にねじ込まれると、つまり、器具保持枠が配線器具固定体にビス止めされると、背面板は、器具保持枠によって壁に押し付けられて、基台は、壁にしっかりと固定される。そして、その基台に組み付けられもしくは備わるカバー体により、配線器具装置の壁表側を覆い隠すことができる。

10

【発明の効果】

【0021】

この発明に係る配線器具装置の隠ぺい方法、配線器具装置の隠ぺい装置、および配線器具装置の隠ぺい構造によれば、基台における背面板は、器具保持枠の裏側にあり、器具保持枠が配線器具固定体にビス止めされると、背面板は、器具保持枠によって壁に押し付けられて、基台は、壁にしっかりと固定され、このため、配線器具装置を長期に渡り安定して覆い隠すことができる。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】この発明の一実施の形態の、隠ぺい構造の分解斜視図である。

20

【図2】同じく、隠ぺい構造の斜視図であって、カバー体が開状態にある。

【図3】同じく、隠ぺい装置の斜視図であって、カバー体が閉状態にある。

【図4】同じく、隠ぺい装置の背面図であって、カバー体の閉状態にある。

【図5】同じく、図4におけるA矢視図である。

【図6】同じく、図4におけるB-B線による断面図である。

【図7】同じく、図4におけるC-C線による断面図である。

【図8】同じく、基台の斜視図である。

【図9】同じく、基台の正面図である。

【図10】同じく、カバー体の斜視図である。

【図11】この発明の他の実施の形態の、隠ぺい装置の斜視図であって、カバー体が開状態にある。

30

【図12】同じく、基台の斜視図である。

【図13】従来の防塵カバーを示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0023】

以下、この発明に係る配線器具装置の隠ぺい方法、配線器具装置の隠ぺい装置、および配線器具装置の隠ぺい構造を実施するための形態を図面に基づいて説明する。

【0024】

図1～図10は、本発明の一実施の形態を示す。図中符号1は、建物の屋内の壁を示す。3は、前記壁1に設置される配線器具装置を示す。8は、前記配線器具装置3の壁表1a（壁1の表）側を覆い隠す隠ぺい装置を示し、9は、その配線器具装置3の壁表1a側を覆い隠す隠ぺい構造を示す。

40

【0025】

ここで、配線器具装置3は、図1に示すように、壁裏1b（壁1の裏）に配置される配線器具固定体4と、壁裏1bの電線2が接続されて壁孔1c（壁1にけられた孔）から壁表1aに露出する配線器具5と、その配線器具5を保持して壁1の前面に対向するとともに配線器具固定体4にビス止めされる器具保持枠6と、配線器具5が壁表1aに露出するようにして器具保持枠6および壁孔1cを覆う化粧プレート7とを備える。

【0026】

隠ぺい装置8は、図1および図2に示すように、壁1の前面と器具保持枠6との間に配

50

置される背面板 10 a を有する基台 10 と、基台 10 に組み付けられてもしくは備えられて、配線器具装置 3 の壁表 1 a 側を覆い隠すカバー体 11 とを備える。ここで、背面板 10 a は、配線器具 5 またはその配線器具 5 に接続された電線 2（図示実施の形態においては、配線器具 5）が貫通配置される貫通孔 10 b を有する。そして、この貫通孔 10 b は、電線 2 が接続された配線器具 5 付きの器具保持枠 6 が通過可能となる大きさに形成される。

【0027】

カバー体 11 は、基台 10 に対して、化粧プレート 7 を含めて配線器具装置 3 の壁表 1 a 側を覆い隠す閉位置（図 3～図 7 参照）と、配線器具 5 を露出させる開位置（図 2 参照）とに移動可能であって、閉位置にあるカバー体 11 と基台 10 とで取り囲む内側空間 8 a は、化粧プレート 7 を収容可能な大きさに形成される。

10

【0028】

具体的には、配線器具固定体 4 は、例えば箱状に形成された配線ボックスからなり、壁裏 1 b の柱とか桟等に固定される。また、配線器具 5 は、コンセントからなる。そして、この配線器具 5 は、器具保持枠 6 の枠内を貫通するように配置されて、その器具保持枠 6 に、例えばカシメ等により取り付けられる。器具保持枠 6 は、例えば金属製であって、矩形状（図示実施の形態においては、上下に長い長方形形状）に形成されて、枠の上下に、ビス挿通孔 6 a が設けられる。そこで、このビス挿通孔 6 a を挿通するビス 12 が、配線器具固定体 4 にねじ込まれることで、器具保持枠 6 は、配線器具固定体 4、ひいては壁 1 に固定される。

20

【0029】

化粧プレート 7 は、配線器具 5 が壁表 1 a に露出するための窓孔 7 a を有する。図示実施の形態においては、化粧プレート 7 は、前後に分離する化粧プレート本体 7 b と取付枠 7 c との二体からなる。ここで、取付枠 7 c は、器具保持枠 6 にビス止めされ、化粧プレート本体 7 b は、前記窓孔 7 a を有するとともに、取付枠 7 c に係止される係止爪（図示せず）を有して、取付枠 7 c に取り付けられる。もっとも、化粧プレート 7 は、二体からなるなくとも、一体に形成されて、器具保持枠 6 に、ビスとか係止爪等により取り付けられても構わない。

【0030】

隠ぺい装置 8 は、前述したように、基台 10 とカバー体 11 とを備える。そして、基台 10 とカバー体 11 とは、例えば合成樹脂からなり、前記内側空間 8 a が、配線器具 5 に差し込まれたコンセントプラグ 13 を収容可能に形成される（図 2 参照）。そして、隠ぺい装置 8 には、コンセントプラグ 13 のコード 13 a が内側空間 8 a から引き出される引出し開口 8 b が設けられる。

30

【0031】

ここにおいて、基台 10 は、背面板 10 a から立ち上がる立設壁 10 c を有する。そして、その立設壁 10 c が取り囲む内側が、前記内側空間 8 a を形成する。詳細には、背面板 10 a は、長方形形状に形成されて、その中央から若干上方にずれた位置に、前記貫通孔 10 b が長方形形状に形成される。そして、この背面板 10 a には、貫通孔 10 b を上下に挟むようにして、孔 10 d、10 d があけられている。そこで、器具保持枠 6 のビス挿通孔 6 a に挿通されたビス 12 が、背面板 10 a の孔 10 d を通ることで、ビス 12 は、背面板 10 a を通過する（図 1 参照）。また、背面板 10 a には、その裏面において壁孔 1 c を取り囲むように凹溝 10 e が形成され、必要に応じてその凹溝 10 e にパッキン（図示せず）が貼り付けられる。立設壁 10 c は、左右の側壁 10 f、10 f と、上壁 10 g および下壁 10 h とからなる。そして、下壁 10 h には、ノックアウト 10 i が設けられ、このノックアウト 10 i を除去することで、前述の引出し開口 8 b が形成される（図 2 参照）。

40

【0032】

カバー体 11 は、その左右の両側および上側が、前記閉位置にて（図示実施の形態においては、閉位置から開位置に渡って）壁 1 の前面に当接または近接するまで延びて形成さ

50

れる。詳細には、カバー体 11 は、前記内側空間 8 a を隔てて背面板 10 a と対向する天面板 11 a と、その天面板 11 a から立ち上がる覆い壁 11 b とを有する。そこで、この覆い壁 11 b が、前記閉位置にて（図示実施の形態においては、閉位置から開位置に渡って）壁 1 の前面に当接または近接するまで延びて形成される。ここで、天面板 11 a は、略長形状であって、上部側が背面板 10 a 側に湾曲して形成される。覆い壁 11 b は、左右の側部覆い壁 11 c、11 c と、上部覆い壁 11 d とからなり、それら側部覆い壁 11 c、11 c および上部覆い壁 11 d は、基台 10 における側壁 10 f、10 f および上壁 10 g の外側に位置して、前記内側空間 8 a を取り囲む。

【0033】

このカバー体 11 は、基台 10 に対して上下にスライド移動可能であって、そのスライド移動する下方端側が前記閉位置となり、上方端側が前記開位置となる。そして、基台 10 とカバー体 11 には、前記開位置にてカバー体 11 を保持する保持手段 8 c が設けられる。詳細には、基台 10 には、左右の側壁 10 f、10 f および上壁 10 g に、その基端側（背面板 10 a の側）において周方向に延びる突条 10 j が形成されている。そこで、この突条 10 j のうち、左右の突条 10 j が案内部 10 k となり、カバー体 11 の側部覆い壁 11 c に、前記案内部 10 k に案内される被案内部 11 e が形成されて、カバー体 11 は、基台 10 に対して上下にスライド移動する。そして、前記保持手段 8 c は、基台 10 に設けられた例えば凸部からなる係止部 10 m（図 8、図 9 参照）と、カバー体 11 に設けられた例えば凹部からなる前記係止部 10 m に係止される被係止部 11 f（図 10 参照）とからなる。

【0034】

また、基台 10 には係合部 10 n が設けられ、カバー体 11 には被係合部 11 g が設けられて、前記閉位置にて、被係合部 11 g が係合部 10 n に係合することで、カバー体 11 は、閉位置から開位置側に安易には、移動しないようになっている。図示実施の形態においては、基台 10 の下壁 10 h の先端部（詳しくは、下壁 10 h の先端部中央に位置する先端一部）が、表面が例えばアール面加工された係合部 10 n となり、カバー体 11 の天面板 11 a の裏面から突出する（詳しくは、天面板 11 a の裏面下部の中央位置から内側に突出する）突部が、被係合部 11 g となっている。

【0035】

隠ぺい構造 9 は、壁 1 の前面と器具保持枠 6 との間に配置された背面板 10 a を有する基台 10 と、その基台 10 に組み付けられてもしくは備えられて、配線器具装置 3 の壁表 1 a 側を覆い隠すカバー体 11 とを備える。ここで、背面板 10 a は、配線器具 5 またはその配線器具 5 に接続された電線 2（図示実施の形態においては、配線器具 5）が貫通配置される貫通孔 10 b を有する。そして、器具保持枠 6 に設けられたビス挿通孔 6 a に挿通されたビス 12 が、背面板 10 a（図示実施の形態においては、背面板 10 a に設けられた孔 10 d）を通過して配線器具固定体 4 にねじ込まれて、器具保持枠 6 と配線器具固定体 4 とで背面板 10 a および壁 1 を挟持して、器具保持枠 6 および背面板 10 a（つまり、基台 10）が壁 1 に固定されている（図 1 参照）。そして、カバー体 11 は、化粧プレート 7 を含めて配線器具装置 3 を覆い隠す閉位置と、配線器具 5 を露出させる開位置とに移動可能となっている。なお、器具保持枠 6 には化粧プレート 7 が取り付けられるが、この化粧プレート 7 と基台 10 の下壁 10 h との間に、化粧プレート 7（図示実施の形態においては、化粧プレート本体 7 b）を、ドライバー等の工具で引っ掛けて、あるいは指先を押し込んで外すためのスペースが確保されるのが望ましい。

【0036】

次に、前記配線器具装置 3 の壁表 1 a 側を、前記隠ぺい装置 8 を用いて覆い隠す隠ぺい方法を説明する。この隠ぺい方法は、図 1 に示すように、基台 10 の背面板 10 a に形成された貫通孔 10 b から、電線 2 が接続された配線器具 5 付きの器具保持枠 6 を、後方から前方に通過させ、背面板 10 a の裏面を壁 1 の前面に当接させるとともに器具保持枠 6 を背面板 10 a の前面に宛がう。そして、器具保持枠 6 に設けられたビス挿通孔 6 a に、ビス 12 を挿通し、そのビス 12 を背面板 10 a を通過させて配線器具固定体 4 にねじ込

むことにより、器具保持枠 6 と配線器具固定体 4 とで背面板 10 a および壁 1 を挟持して、器具保持枠 6 および基台 10 を壁 1 に固定する。次いで、化粧プレート 7 を器具保持枠 6 に取り付け、基台 10 に組み付けられもしくは備わるカバー体 11 によって、配線器具装置 3 の壁表 1 a 側を覆い隠す。なお、この隠ぺい方法は、初めに、背面板 10 a の貫通孔 10 b から、電線 2 が接続された配線器具 5 付きの器具保持枠 6 を通過させるが、これに代えて、前記貫通孔 10 b から、電線 2 を、後方から前方に通過させ、その電線 2 を、配線器具 5 付きの器具保持枠 6 における配線器具 5 に接続してもよい。

【0037】

次に、以上の構成からなる配線器具装置 3 の隠ぺい方法、配線器具装置 3 の隠ぺい装置 8、および配線器具装置 3 の隠ぺい構造 9 の作用効果について説明する。隠ぺい装置 8 および隠ぺい構造 9 は、基台 10 とカバー体 11 とを備え、基台 10 における背面板 10 a は、壁 1 の前面と器具保持枠 6 との間に配置される。つまり、背面板 10 a の裏面が、壁 1 の前面に当接し、器具保持枠 6 が、背面板 10 a の前面に宛がわれる。したがって、背面板 10 a は、器具保持枠 6 の裏側にあり、器具保持枠 6 のビス挿通孔 6 a を通るビス 12 が、配線器具固定体 4 にねじ込まれると、つまり、器具保持枠 6 が配線器具固定体 4 にビス止めされると、背面板 10 a は、器具保持枠 6 によって壁 1 に押し付けられて、基台 10 は、壁 1 にしっかりと固定される。そして、その基台 10 に組み付けられもしくは備わるカバー体 11 により、配線器具装置 3 の壁表 1 a 側を覆い隠すことができる。

【0038】

すなわち、基台 10 における背面板 10 a は、器具保持枠 6 の裏側にあり、器具保持枠 6 が配線器具固定体 4 にビス止めされると、背面板 10 a は、器具保持枠 6 によって壁 1 に押し付けられて、基台 10 は、壁 1 にしっかりと固定され、このため、配線器具装置 3 を長期に渡り安定して覆い隠すことができる。したがって、的確に、配線器具 5 を埃等から保護したり、子供や老人が不用意に配線器具 5 に触れるのを防止したりすることができる。

【0039】

また、背面板 10 a の貫通孔 10 b は、壁裏 1 b の電線 2 が接続された前記配線器具 5 付きの前記器具保持枠 6 が通過可能となる大きさに形成される。これにより、既設の配線器具装置 3 に対し、配線器具 5 から電線 2 を取り外すことなく、基台 10、すなわち隠ぺい装置 8 を配置することができる。

【0040】

また、コンセントプラグ 13 のコード 13 a を引出し開口 8 b から引き出すことで、コンセントプラグ 13 を配線器具 5（コンセント）に差し込んだ状態のままで、カバー体 11 を閉位置にすることができる。このため、特に、電源が常時必要な冷蔵庫等のコンセントプラグ 13 をカバー体 11 で覆い隠して、トラッキング現象を防止することができる。

【0041】

また、配線器具 5（コンセント）に常時接続されるわけではない掃除機等を使用する際には、保持手段 8 c によってカバー体 11 を開位置に保持した状態で、コンセントプラグ 13 を配線器具 5（コンセント）に接続することができる。このような箇所（つまり、コンセントプラグ 13 の抜き差し操作を頻繁に行う箇所とか、あるいは配線器具 5 がスイッチからなっていて、そのスイッチの操作を頻繁に行う箇所）においては、引出し開口 8 b は、不要である。つまり、ロックアウト 10 i を除去することなく用いたり、ロックアウト 10 i そのものを設けないようにしてもよい。こうすることで、カバー体 11 が閉位置に位置するときに、内側空間 8 a への手や異物の差し入れを防止することができる。

【0042】

また、カバー体 11 は、その左右の両側および上側が、閉位置にて壁 1 の前面に当接または近接するまで延びて形成される。これにより、カバー体 11 が閉位置にあるとき、基台 10 は、そのカバー体 11 に隠れて見え難く、見栄えがよい。

【0043】

また、基台 10 は、背面板 10 a から立ち上がる立設壁 10 c を有し、その立設壁 10

10

20

30

40

50

cが取り囲む内側が、前記内側空間8aを形成する。これにより、隠ぺい装置8および隠ぺい構造9は、剛性が増し、カバー体11を押しても撓み変形し難い。

【0044】

また、背面板10aには、その裏面に凹溝10eが形成されており、その凹溝10eにパッキンを貼り付ければ、背面板10aは、その裏面に、壁孔1cを取り囲むように貼り付けられたパッキンを有する。そして、このパッキンにより、壁1の前面に凹凸がある場合であっても、壁1と基台10の背面板10aとの密着性が増し、壁1内の粉塵が、壁1と背面板10aとの間を通して放散するのを防止することができる。

【0045】

なお、本発明は、上述した実施の形態に限定されるわけではなく、その他種々の変更が可能である。例えば、配線器具5は、コンセントからなるが、スイッチ等からなっているもよい。

【0046】

また、基台10は、立設壁10cを有するが、図11および図12に示すように、立設壁10cは、無くともよい。また、立設壁10cのうち下壁10hのみを無くしてもよい。そして、これらのように、下壁10hが無く下側が開口する場合には、その開口が、コンセントプラグ13のコード13aが内側空間8aから引き出される引出し開口8bとなる。

【0047】

また、基台10における背面板10aの貫通孔10bには、配線器具5が貫通配置されるが、配線器具5に接続された電線2が貫通配置されてもよい。すなわち、配線器具5は、器具保持枠6に保持されて、貫通孔10bを貫通するまで後方に延びているが、貫通孔10bに達することなく、配線器具5に接続された電線2が、貫通孔10bを貫通してもよい。

【0048】

また、背面板10aの裏面には、凹溝10eが形成され、その凹溝10eにパッキンを貼り付けることができるが、凹溝10eを設けることなく、背面板10aの裏面の平坦部にパッキンを貼り付けるようにしても構わない。

【0049】

また、カバー体11は、スライド移動することで開閉されるが、例えば、カバー体11をヒンジ（一体もしくは別体成形のヒンジ）により回転することで開閉するものであってもよく、また、カバー体11を基台10に対し着脱することで、開閉するものであってもよい。

【0050】

また、配線器具固定体4は、配線ボックスでなくとも、壁1の裏面に当接するよう配置される枠であってもよい。

【符号の説明】

【0051】

- 1 壁
- 1a 壁表
- 1b 壁裏
- 1c 壁孔
- 2 電線
- 3 配線器具装置
- 4 配線器具固定体
- 5 配線器具
- 6 器具保持枠
- 6a ビス挿通孔
- 7 化粧プレート
- 8 隠ぺい装置

10

20

30

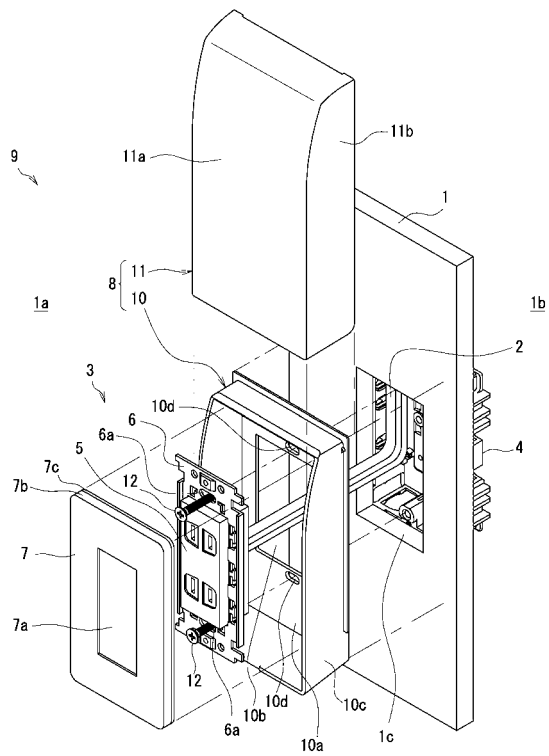
40

50

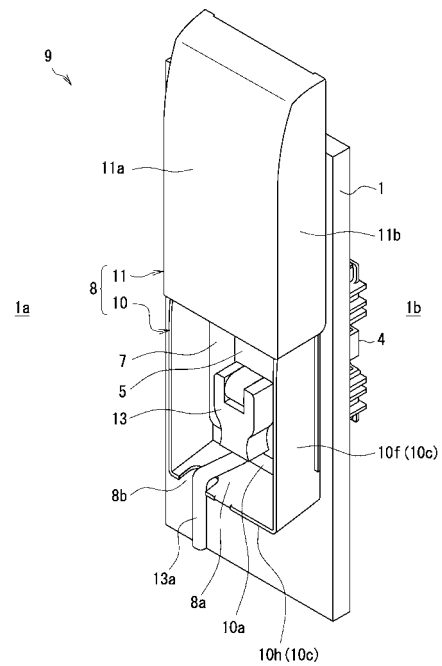
- 8 a 内側空間
- 8 b 引出し開口
- 8 c 保持手段
- 9 隠ぺい構造
- 10 基台
- 10 a 背面板
- 10 b 貫通孔
- 10 c 立設壁
- 11 カバー体
- 12 ビス
- 13 コンセントプラグ
- 13 a コード

10

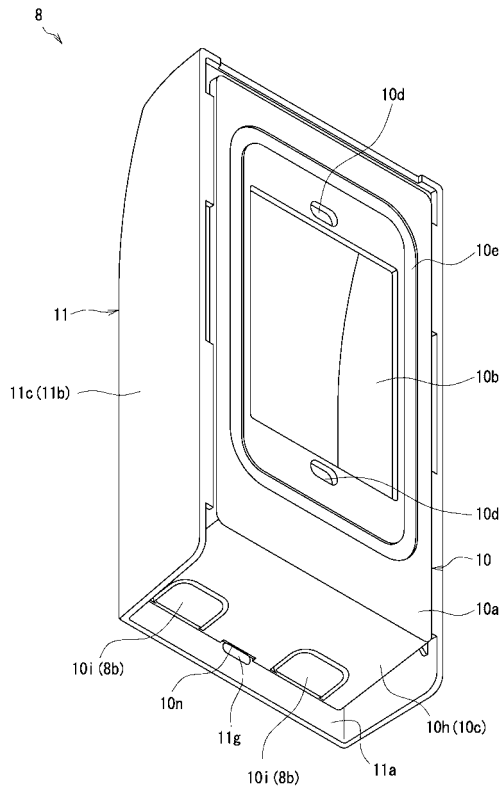
【図 1】



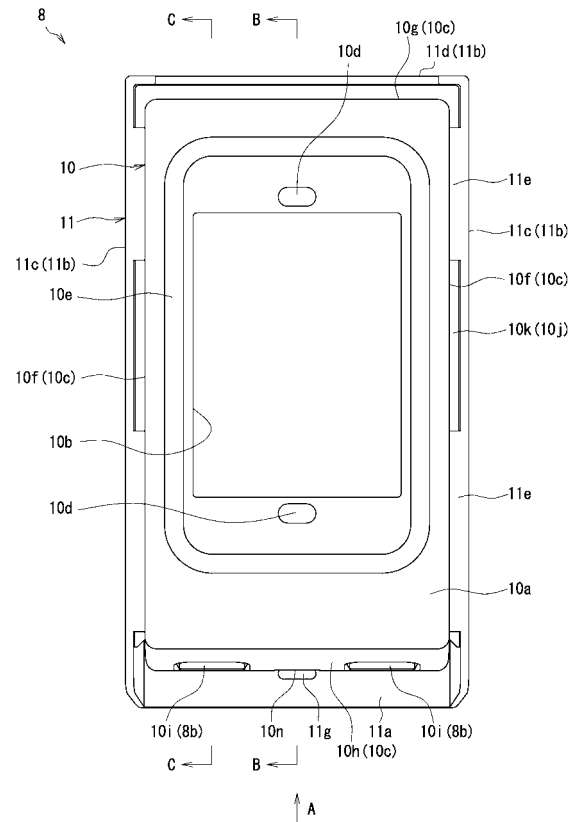
【図 2】



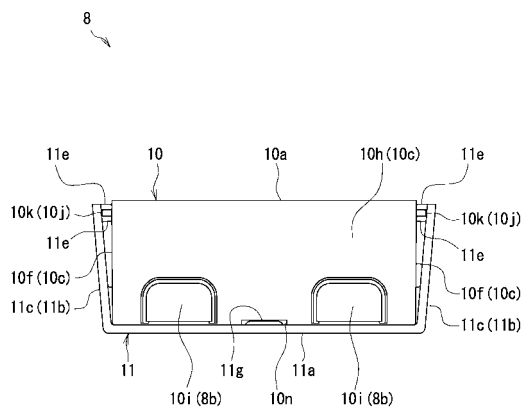
【図 3】



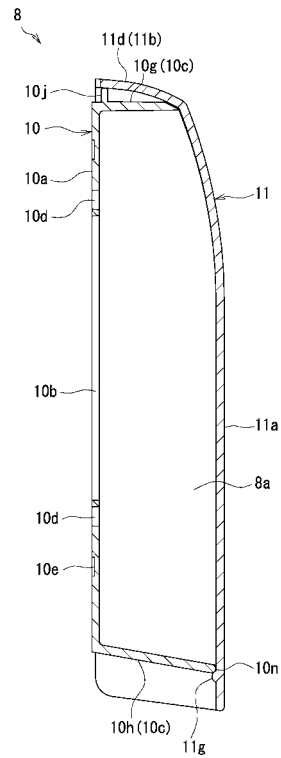
【図 4】



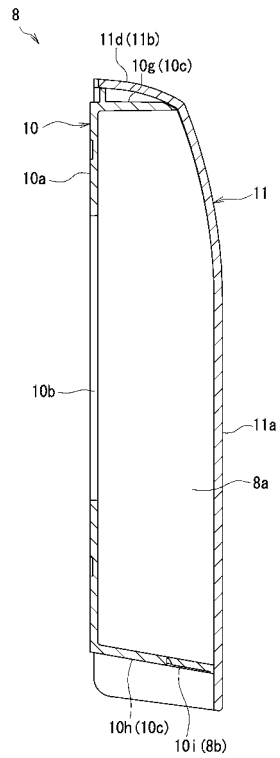
【図 5】



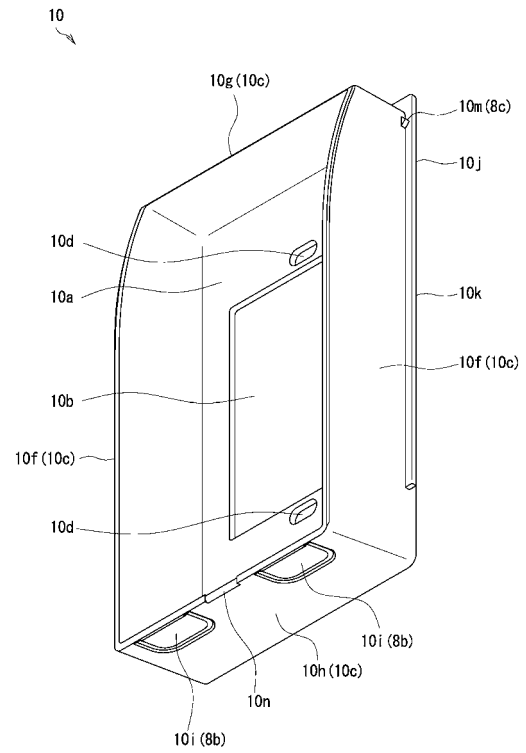
【図 6】



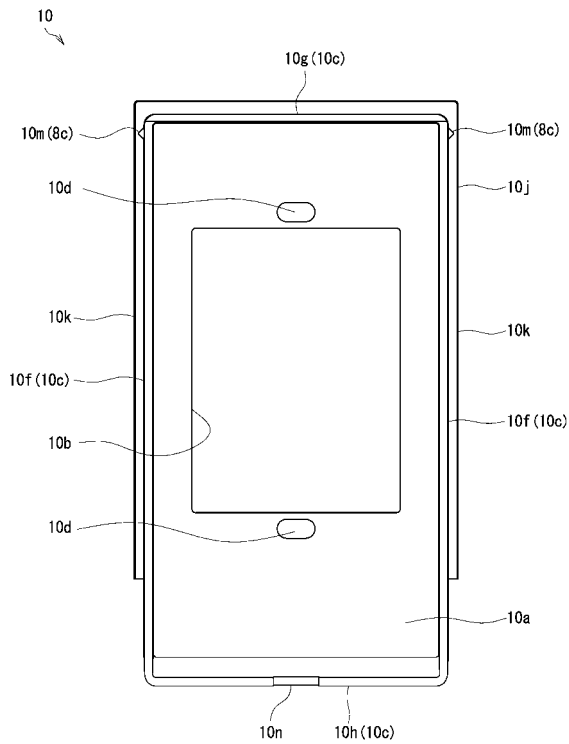
【図 7】



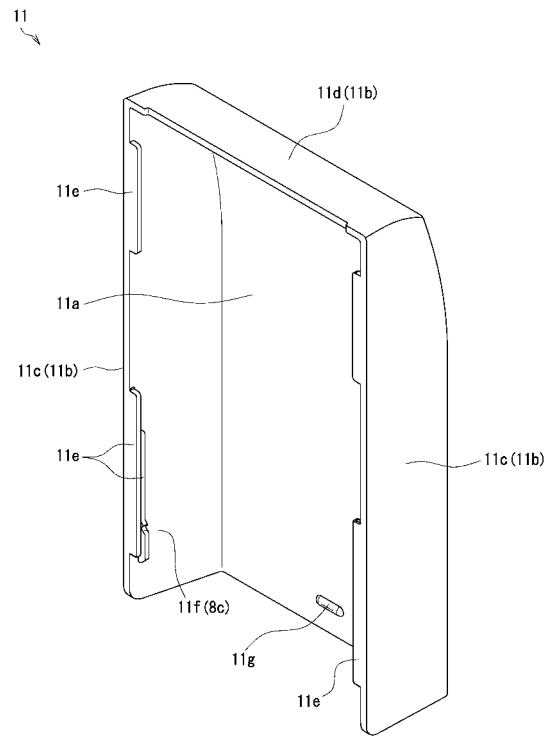
【図 8】



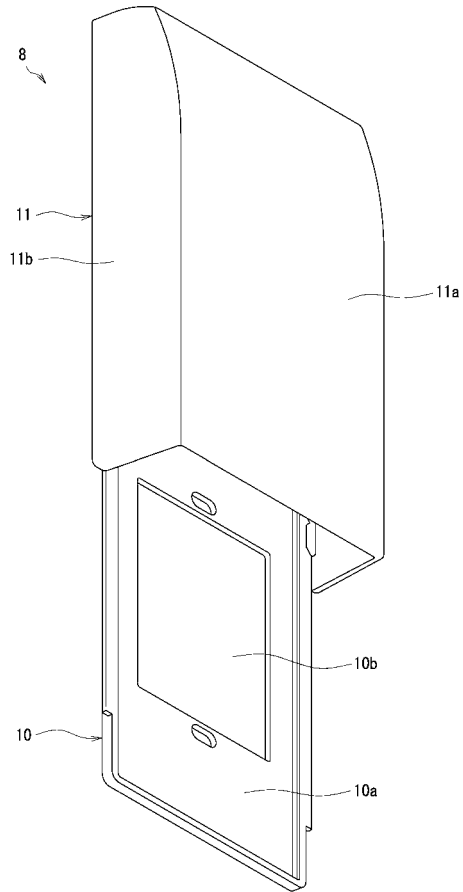
【図 9】



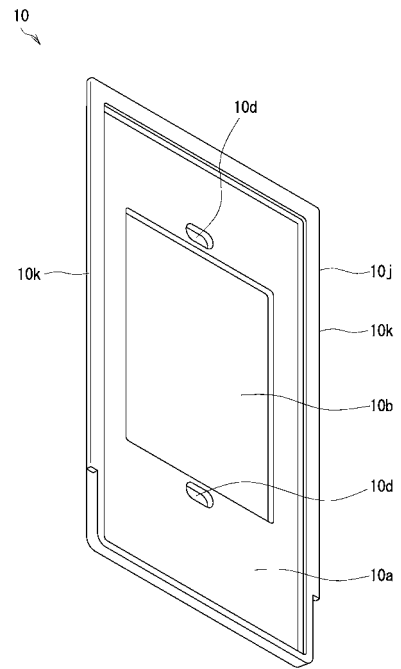
【図 10】



【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】

